

医療費の効率化を図るための情報共有システム

～電子お薬手帳と電子カルテの共有化～

慶應義塾大学大学院 薬学研究科 博士課程

山田 翔士

概要

- 患者一人一人が適切な投薬（残薬）管理を行うための医療従事者間の情報共有システムの実現。
- 投薬管理、残薬の管理による医療費抑制、医療の効率化の推進
- 医療情報の共有による副作用、飲み合わせ等臨床研究の推進
- 具体的なアクションとしては我々が考えるモデルを特定の地域において実証実験（柏市を想定）

実現すべきビジョン

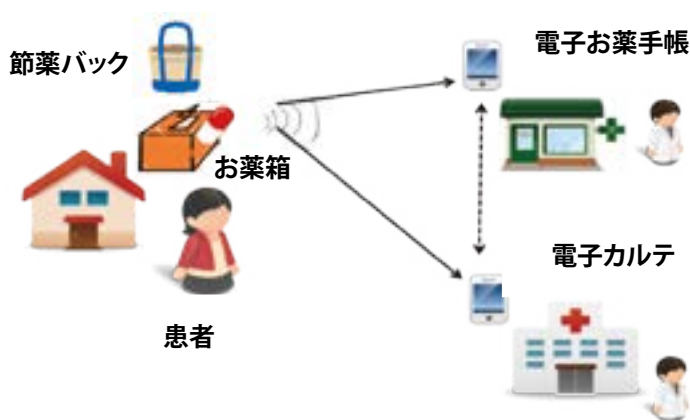
〈医療情報共有化プラットフォーム実現による医療の効率化（医療費抑制）〉

- 患者サイド
残薬を抑制することによる医療（投薬）の効率上昇、副作用の抑制
- 医療従事者サイド
（医師）適切（効果的）な医療の提供可能性の増大
（薬剤師）副作用や服薬指導の対応の時間減少（効率化）
（政府）医療の効率化による医療費抑制、便益の増大



医療の効率化・医療技術の進歩に貢献

提言の具体的内容



- 提案1 日本における家庭の残薬実態把握のための実証研究
- 提案2 薬箱や節薬バックを利用した投薬管理システムを設置
- 提案3 医療従事者間の情報共有システムの構築
- 提案4 これらの実用性、費用対効果を検証するための実証実験（候補地として柏市）

提言先

- 厚生労働省 医政局